令和２年度　第１回五條市総合教育会議議事録

日　時：令和３年１月２８日（木）　午後３時３０分から

場　所：五條市役所　議会委員会室

出席者：　太田好紀 市長
堀内伸起 教育長
寒川英明 教育委員会委員
大西修二 教育委員会委員
井本誓晃 教育委員会委員
井田栄子 教育委員会委員

【事務局等】
松井教育部長
和田市長公室長
中本すこやか市民部長
平田あんしん福祉部長
名迫教育総務課長
尾﨑学校教育課長
上田子ども未来課長
小田生涯学習課長
吉田文化財課長
中垣子どもサポートセンター所長
馬場児童福祉課長
保健福祉センター所長
（代理　井筒保健福祉センター次長）
西峯企画政策課長

１　開会（議事進行　和田市長公室長）

会議冒頭において、総合教育会議は、予算の編成と執行の権限を持つ市長と教育に関する権限を持つ教育委員会が、五條市の教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策の大綱である「五條市教育大綱」の策定について協議するものである旨の説明があった。

２　市長挨拶（太田市長）

本日、令和２年度第１回五條市総合教育会議を開催いたしましたところ、皆様方には御出席をいただき厚くお礼を申し上げます。

教育委員の皆様には、平素から学校適正化の推進や学校における新型コロナウィルス感染症への対応など、教育に関する様々な問題や課題の解決に向け、御尽力をいただいておりますことに改めて感謝を申し上げます。

この会議も平成２７年度から開催して今回で９回目となりますが、本日の協議事項は五條市教育大綱の策定ということで御協議していただくわけでありますが、様々なことがある今の時代の中での私たちの考え方、これから未来に続くために我々がどうすることが一番望ましいのか、子どもたちのために何を今すべきか、大変重要なことと考えます。皆様から御意見をいただいて、よりよい五條市教育大綱が形となって、その形が現実となるよう動かなくてはならないというのが大事であると考えます。皆様の御意見をいただきながら五條市の教育の充実に向かって頑張ってまいりたいと考えます。今後も一層の御理解と御協力をお願い申し上げ、冒頭の挨拶に代えさせていただきます。

３　協議事項

協議事項に先立ち和田市長公室長から次の説明があった。また異議はなかった。

①　今回の会議の議事録への署名は、井田委員にお願いすること。

②　今回の会議は、「五條市教育大綱」の策定について協議するものであり、地方教育行政の組織及び運営に関する法律の規定により、会議及び会議録が公開となること。

③　今後のスケジュールについて「五條市教育大綱」について、本日の総合教育会議での協議後、「五條市教育大綱」を正式に策定し、公表を行うとともに、市議会へ概要及び策定の経緯等について報告する予定であること。

〇五條市教育大綱について

【説明】名迫教育総務課長

資料を基に五條市教育大綱の策定の経緯及び五條市教育大綱（案）の内容について説明

・表紙には市の木である「楠」を裏面には五條市の「市民憲章」を掲載

・策定の趣旨、教育を取り巻く状況、五條市教育大綱の考え方、位置付け及び対象期間、基本理念、基本方針について

・令和２年１２月の定例教育員会で教育委員の意見について

＜意見１＞
　「五條市ビジョン」の「第１條」が、我々、教育委員会の果たすべき分野であると捉えていいのか。
　具体的な事務執行は、基本計画に基づき行っていくので、今回、改めて大綱を定める意図はどのようなものになるのか。
　例えば「就労人口を増やす」といったことは首長部局で進めていき、教育委員会は教育に関わる部分をこれまでと同様、しっかりと進めていくということなのか。首長部局側が今まで以上に教育に寄り添った観点をもちながら、施策を展開していくことが大切なのではないか。
＜回答１＞
　五條市ビジョンは、本市の最上位計画になり、行政の果たすべき方向性を示している。教育の分野にかかるもう少し具体的な方針を大綱にて示していくということである。
　五條市ビジョンの「第１條」と教育の分野とは密接に関わっている。しかし、その他の「條」にも教育と関連する部分がたくさんあるので、それらを網羅する形で大綱としてまとめていくということである。
大綱の位置付けは、あくまで首長が定めるもので、教育委員会だけで施策を進めていくのではなく、市全体の部局で教育に関わりながら五條の教育を進めていこうということである。
＜意見２＞
　計画や大綱というのは羅針盤のようなもので非常に大切だと思うが、もう少し具体化したものが欲しい。具体例を示すことでもう少し分かりやすくなり、説得力も出るのではないか。
大綱を作って終わりということではなく、それを具現化して実践していくことが大切なので、そこにも力を入れていただきたい。
＜回答２＞
　具体的な施策の取組については、基本計画でカバーしていくということになる。
　柱になる部分をまとめたものを、今回の大綱に要点として記載している。
　従来、本市の教育振興基本計画（以下「基本計画」という。）で、教育委員会が進める事業の５年計画で策定しており、それに基づき各施策を進めている。
　平成２７年度の法改正で、教育大綱の策定に関する規定が設けられ、本市でも総合教育会議で従来の基本計画の骨子部分を教育大綱とすることになった。
　本市においては、五條市ビジョンが示されたことを受けて、その中で教育が果たす部分はどこかということを明確にして、大綱に位置付けるという手法を取りたいと考えている。

【意見】太田市長

大綱は作って終わりというわけではなく、実践いただくことが大切である。完璧なものを作ったとしてもそれを現実的にするか、これは大変なことだろうと思う。コロナ禍ということもあるが、素晴らしい大綱を実現していくことは並大抵のことではない。より協議しながら一丸となってやるしかない。これは、教育だけの問題ではない。教育長はいつも言われるが、全てと連携しないとやっていけない。そういう意味では、枠を超えた連携プレーをしながら、お互い切磋琢磨しながら協働でやっていくのが大事かなと思う。これから学校適正化がどんどん進んでいく。適正化でハード面の整備は進んでいるが、建物が建ったから終わったではない。これが始まりであるということを堀内教育長にも申し上げたい。これをして、学力が低下しないように。子どもが少ないから適正化するのではなく、学力を上げるためにやっていこうという趣旨もあった。新しい校舎ができた、新しいものができたではなく、そこからがどれだけの教育がやっていけるのか。

今、大変厳しい状況の中で予算の編成を行っているが、未来への投資については予算を付けてもよいと言っている。特に学校に関しては、これからやることは一番大事なとき。地域間の問題もあったが、やっと校区もできた。これからは学業がどれだけレベルアップするかということが最大のテーマ。

統合した、学力が低下した、ということになれば大変、問題になっていく。徹底的にレベルアップするよう取り組んでいかなければならない。いくらお金が苦しいといっても子どもの教育は徹底してやっていきたい。新年度予算においても、ある程度反映をしていきたいと考えているので頑張っていただきたい。

【意見】寒川委員

市長が言われたとおりと思う。何が問題かというとマンパワーが足りない。結婚して子どもが一人では人口が減少する。２人で維持。３人で初めて人が増えていく。また、転入、転出の数を教えてほしいが、それもどの程度かということもあるし。出生数が少なくて死亡が多い。また、団塊の世代の人が１０年もすれば死亡数が多くなってくる。更なる人口減少が見込まれている。それを立ち直らせるために子どもを大切にするのが一番。他の市町村と比較したとき、五條にはスターバックスがない。おしゃれな街にはスターバックスがある。またユニクロもないという意見もある。

【質問】太田市長

西峯課長、出生率は？

【回答】西峯企画政策課長

手元にあるのが平成２９年度の資料ですが、五條市の合計特殊出生率は、１．０６でこの年の全国平均が１．４３

【質問】太田市長
出生した人数は？

【中本部長】
出生した人数でございますが、平成２９年度は、１４１人、　平成３０年度は、１４７人、令和元年度は、１１３人、令和２年４月から本日までの出生人数は、６７人となっております。

【意見】寒川委員
転入転出は？

【中本部長】
人口増減のデータはあるが、転入転出については、現在の資料にはない。１２月末現在で前月比の人口減少がマイナス１０４人という状況です。

【意見】太田市長
亡くなられた方が大体４５０人～５００人くらい。毎年５００人弱亡くなられている。４～５年前までは１４０～１５０くらいの出生数であったが、今年は１００を切るであろうといわれている。転出は５０～１００くらいの間。転出が多いというのは大学に進学した時に転出するのが多い。現在の人口は？

【中本部長】
２９，３６４人です。

【意見】太田市長
３万人を切った。どんどん人口が減っているということで、寒川先生がおっしゃるようにどう食い止めるのかが難しい。人口が増えれば自ずと出生率も上がってくる。高齢者の比率が上がり、若者の率が少なくなっている。田園地区などでも２０～３０年前には３０代の人が家を買って住んだのであるが、今はそうした人たちが定年を迎えて、その息子さんたちは出て行ってしまっているので、その定年を迎えた人が残っている。まさに、団地も高齢化になっている。どうするかということで出生率を上げるということが一番大事。これに補助金を出すなどいろいろなことは考えている。今の子どもたちはそれ以前に結婚しないと

いう問題がある。親が結婚するように言っても、結婚する意識が少なくなっている。出会いもないし、出会いがあっても結婚の意識がない。結婚してもらわないといけない。今もやっているが、それらを踏まえての取組を進めていきたい。しかし、これはちょっとやったからできるという問題ではない。いろいろ総合的にやっていかなければならない。子どもが生まれた時の補助を国も上げようとしている。子ども２人のところは３人目を産むととても生活ができないというところがたくさんある。共働きしないとやっていけない。子どもをちゃんと預けることができる環境の整備も大切。もう一つは、出ていくというのは、通勤に時間が掛かるということ。会社の近くに住むとなる。五條市から通勤できる体制を整えなければならない。なんらかの措置を行政としてやっていかなければならない。これをすれば出生率が上がる、出て行く人が少なくなるというような効果的なものはない。地道な活動もしていかなければならない。

【説明】中本すこやか市民部長
　保健福祉センターでは、子どもを増やすということで不妊治療に助成をしている。年間、何人か相談に来られる方がいる。複数年通っている人もいれば、単年度の人もいる。国も改定したが、これまで７３０万円という所得制限に該当する夫婦が何件かあったが、国が所得制限を撤廃するということで市の方も撤廃して、より不妊治療を援助する形で子どもを産んでいただきたいという施策を来年度からさせていただきたいという計画をしている。

【説明】平田あんしん福祉部長
　あんしん福祉部では、経済的に結婚に踏み切れないというカップルに対して年齢であるとか所得制限があるが、これまで２０万円あった補助金を３０万円に増額しながら、結婚できるような支援策を考えています。

【意見】太田市長
　それを使って何組くらい結婚したのか。

【説明】平田あんしん福祉部長
　今年はまだ１所帯。やはり所得制限があり、共働きで所得を合算するとそれに引っかかってしまう。国の施策ということもあり、致し方ないところもある。
　制度を利用してもらえる方には２０万円を３０万円に増額する予算要求をしている。

【説明】和田市長公室長

今、寒川委員から少子化ということで御提言をいただいたところですが、市長公室でございますが、特別定額給付金の対象外となった今年度出生した子どもに対して本市の独自施策として同じように１０万円の給付を行っている。

【意見】大西委員
私は吹奏楽をやっていまして、来年の４月で結成５０年になる。私が大学生の時から始まっているが、最近は公民館祭や市文化祭なども中止になり、出ていく機会がないが、以前は４０～５０人くらいで頑張っていたときもあった。当時から、高校生で参加してくれても、卒業後、家から通学している大学生は引き続いて参加してくれるが、下宿している人は来てくれない。当然ながら就職するとなると出て行ってしまう。後から若い高校生などが入ってくるなどの新陳代謝が起こらない。せっかく仲間になって一つのチームができても、進学などの段階で市外に出て行ってしまうと、毎年嘆いていた。最近は嘆くことすらできないのが現状である。出生から始まって結婚、五條市の中で暮らしていけるような施策が必要。

【意見】太田市長
コロナ禍で１０年くらいで進むことが２年くらいで進んでいる。
国のいろいろなことが変わってきている。これまでは東京一極集中ということであったが、大手が本社ビルを売却するなど、地方に分散しようという動きがある。ＰＣがあればどこでも仕事ができると言われている。地方の流れは変わってくる。その土壌作りもやって行かなければならない。日本は海外からの輸入が多かったが、国外から国内に戻して行こうとする流れがある。株価をみていても、これまで良い株だと言われていたものが下がり、あまり知られていない会社の株が上がったりしている。変動の時代である。この時代に企業として成り立つところはどんどん成長している。今までと同じことをやっているところは衰退している。民間であれば時代を追っていくが、一番遅れているのが自治体だとよく言われる。これから民間に比べ多少スローであっても、それに近づくようにやって行かなければやっていけないと思う。
国は今、莫大なお金をこれにつぎ込んでいる。これが終わったあと、間違いなく相当締めてくるだろう。そのしわ寄せが近いうちにくる。日本の自治体は大方、８、９割弱が国からのお金に頼っている。自分のところの財源ではもたない。それまでに、ある程度の体制を確立していかなければならない
シダーアリーナで３密を避け、成人式ができたのはうれしかった。今年の成年の主張で一人素晴らしい話をしてくれた人がいた。そんな素晴らしい子が五條市の中にいてくれる。国の省庁の幹部にも五條市の出身者がいる。五條市からそ

のような素晴らしい人材が出ている。そのような一旦出て行った人に帰ってきてもらうということも考えていく。一旦は出たが、親元、ふるさとに帰ろうという人もいくらかいるので、そういう人たちも帰っていただこうということもやっている。

【意見】堀内教育長
　人が増えているところをずっと見ていると、今は大きい住宅地は売れない。駅に近いところに２世帯住宅が建っているようなところで人口が増えている。大きな住宅地には人が来ない。今まで住宅地と呼ばれたようなところは全部空いている。平成２３年に五條市に来たが、そのときからずっと何とか教育により一人でも出て行く子どもの数を増やさないようにできないかと考えてきた。そのころの卒業生２５０～２７０人、出生数も新成人もそれぐらいいた。それが２０年後の成人式は１００人になる。こうした中、教育の果たせる役割は何か、御意見をいただきながら、教育の側、福祉の側から、建設の側から発想していくということをつながないといけない。一人でも多く五條市に残ってほしい。また、就労の問題については、先ほど市長もおっしゃったが、通えるというのが大事である。

【意見】太田市長
　ちなみに、奈良県で人口が増えているのは２か所。香芝市と葛城市。生駒市も奈良市も減っている。葛城市が近畿で住み心地ランキングの１位になった。以前は王寺町が上であったがそれよりも良くなった。葛城市は土地も安く買いやすいし、教育も熱心、高齢者福祉にも力を入れている、全てに力を入れているということでランキングが上がった。一部分にのみ力を入れてもだめで総合的にいい形になれば人が集まってくる。

【意見】井本委員
　人口の問題は、出生率、若者の転出、年配の人が戻ってくるという３つに集約されると思う。その中で出生率というものは、結婚という話があったが、若者を定住してもらうにはどうすればよいか。若者の目線に立つ必要がある。年配者がいくらこうしよう、ああしようといったところで若者が気に入らなければ興味がわかないと思う。墓参りで戻ってくるというのも今はもう限界である。息子が出て行ったから自分の代でもう終わりだという人が結構いる。墓で人の心を掴んでいられないと感じている。家系とか一族とかでは、人の心を掴んでおけない。心の在り方が昔と今では変わってきているというのを実感する。子どもと話をしたが、なぜ五條で住みたがらないのか、五條の魅力は何か。例えば都会では、

バスケットボールでも簡単にできる公園など集まれる場所がある。五條には留まろうという気持ちにさせるものがない。進学で出て行った後、戻ってくる気持ちにさせる何か。若者の気持ちを掴むということが教育の中でも大事。学力というよりも総合の人間力、五條は大事であると思ってもらえる何かが必要ではないか。伝統的なものもよいが若者目線で、若者に寄り添っていく何かが必要なのではないかと思う。

【意見】太田市長

五條市のテクノパークで、五條市民を雇用した企業に助成を出しているが五條の人が来てくれない。地元に働く場所はあるが、その内容により来てくれないということがある。新庁舎のにぎわい棟にコンビニを持ってこようとしたが誰一人として相手にしてくれない。スターバックス以前、普通のコンビニも相手にしてくれない。

新庁舎ができたら、今の市役所の跡地利用を議論していく。五條市の図書館は最初にできたが、今となっては小さいと言われる。子どもたちを集めて何かできる環境など、歴史と文化を大事にする何かを考えたい。

【意見】井田委員

今、井本委員が言われたように、親がいるから、墓があるからというのは私たちの年代までで終わりではないかと、自分の子どもたちを見ていて思う。それで帰って来ようという気持ちがない。市長が言われたように、成人式で良い意見をもって、その意見を出してもらって、その意見を反映できるような取組ができればよいと思う。今の五條市で一番大事にしなければと思っているのは、西吉野農業高校、新しく全国募集もして、校舎も旧西吉野中学校の新しい建物になりスタートする。五條市立になるということで、安定して毎年生徒が入学してくれて、その子どもたちが五條市で住んで、五條の農業を担っていくという形がとれるように。五條市は学校も統合して充実している。認定こども園もできて、それ以外にも私立の保育園、こども園もある。市立の高校もあるという、すごく教育熱心なまちだと思ってもらえると思っている。五條市立西吉野農業高校となるので、ここが衰退しないように、毎年安定して３０人の生徒が入学し、その卒業生をみて、あそこに行きたいというくらいに力を入れていただけたらと思う。

教育大綱、素晴らしいものを考えていただいた。これを実現するために各部局が協力しながら進めていっていただきたい。

【意見】堀内教育長

子ども議会や定住のパンフレットを作るなど、具体的な取組を打ち出せばそ

の中で新しい息吹があるのではないか。

【意見】太田市長
　井田委員が言うように、教育だけでなくまちづくりを兼ねてやらないといけない。農水省の補助制度を利用するなど五條市に残って自分で農業をやっていってもらえる。これから農業の後継者がどんどん少なくなっていく。教育だけでなく移住定住に結び付け、それを循環できるような形にできればよい。
　全国的にも実習が多い。学校で学んだことを次に生かせる形になったらよい。五條市にどれだけ受入れ体制があるかというのが大きな課題。それができたら、あそこに行こうということになる。そのような流れを作って行きたい。

【司会】和田市長公室長
　今日は、少子化、定住施策を中心に御議論をいただいているわけですが、空家あっせんを市のＮＰＯに委託しているが、その空家の問い合わせが非常に多いという話がある。コロナ禍でのリモートワークなどでそのような話も出てくるのではないか。明るい兆しもあるので注意深く見ていきたい。まだまだ御意見を頂戴したいところですが、予定をしておりました時間となってきたようでございます。今日、御協議いただいた点も踏まえまして、引き続き教育大綱の策定を進めさせていただきたいと思っております。
　なお、教育大綱につきましては、策定後、公表をさせていただきます。そして市議会へ概要及び策定の経緯について御報告をさせていただきますのでよろしくお願いいたします。
　それでは、以上で本日の総合教育会議を終わらせていただきたいと存じます。閉会にあたりまして堀内教育長から御挨拶をいただきたいと思います。

【挨拶】堀内教育長
　皆さんありがとうございました。教育だけでなく、ほかのいろいろな分野とつながりながらやっていくことが課題かなと思いました。
　この教育大綱というのは、平成２７年に大津のいじめ事件がきっかけで、それまでは教育は教育でやっていればよい。一本の木がそれぞれ立っているような行政の姿があった。そんな中で、学校で自分の命を絶つという大変な事件が起こった。これは、教育だけ、教育と家庭だけの問題ではないのではないか、全ての者がしっかりと考えていく必要があると、地教行法が改正されて、市長をトップにした総合教育会議というものが設けられた。ここのところをこれからも我々は大事にしなければならない。
　市長も最初におっしゃったが、適正化をしたが学力を上げなければならない

というプレッシャーを感じている。その辺の部分もしっかりと実現していけるように教育委員会も頑張っていかなければならない。また、ほかの部局や委員の皆様の意見も聞きながら頑張っていかなければならない、そんな思いを強くしたところです。

大変いろんな意見をいただきましたけれども、一緒に消化して栄養として励んでいきたいと考えております。本日は大変ありがとうございました。

【司会】和田市長公室長

ありがとうございました。それではこれをもちまして令和２年度第１回総合教育会議を閉会とさせていただきます。

皆様、本日はありがとうございました。